

胆江日新聞

胆江日日新聞社
〒023-0042 岩手県奥州市水沢区柳町8
電話(0197)24-2244
FAX(0197)24-1281
©胆江日日新聞社 2015

総合貸衣裳センター

七福人

水沢区佐倉河字慶徳四ノ一
TEL (一三) 八五五五

きょうの紙面

めざめジャーナル、広域トピックス
高橋由一町長平成27年度施政方針の
知っ得情報、紙上ギャラリー
障害児の歯科保健 在り方模索
とくする地域自治体 市議と懇談会

7面 6面 5面 3面 2面

胆江日日新聞社ホームページ
http://www.tanko.co.jp

ILC 誘致へ 広域都市構想 早期に

ILC 誘致へ

石川氏(中央大)が必要性指摘

国連防災会議・公開フォーラム 仙台



仙台市で開かれている第3回「国連防災世界会議」に合わせ、国際リニアコリイダー(ILC)と国際学術研究圏域の将来像を議論する一般公開フォーラムが15日、同市青葉区のTKPカーテンシティ仙台で開かれた。中央大学理工学部の石川幹子教授は、基調講演の中で「ILCを迎える上での広域エリアの都市構想(ビジョン)がまだ示されていない」と指摘。誘致実現後の理想像や思いを「ビジョン」という形にして「早急に見せるべきだと訴えた。」(2面に関連)

同防災会議会期中(14-18日)に実施される一般市民向けの「公開フォーラム」の一環として東北経済連合会が主催。会場には胆江地区をはじめとするILC誘致関係者や外国人市民ら約300人が詰め掛け、被災地復興や国際的多様性を意識したまちづくりの在り方を考えた。石川教授は「これまで日本学術会議や仙台で昨年実施した講演会で、広域エリアの都市構想が存在していない」と指摘。国連防災世界会議に合わせ開かれた、ILC誘致と研究都の将来像を考えるフォーラムII仙台市、TKPカーテンシティ仙台

と述べた。だが、この指摘がまたたくまに伝わっていない」と主張。「ILCを迎えるためには「自分たちはどんなビジョンを持っているか」を深く考えなければいけない。学生が自分の考えを論文にすると同様、志をビジョンという形にし、世界や政界に見せる作業をしなければ全く意味がない」と強調した。水沢出身の政治家、後藤新平が壮大なアイデアで都市計画などを展開し、「大風呂敷」とあだ名されたことを引用しながら「震災復興もILCも『大風呂敷』どころか『小さな風呂敷』さえ存在しない。新平がこの状況を知らず、怒りも嘆きも持たないで、あんなに力があるのに」と石川教授。岩手、宮城両県の経済、学術、市民、行政それぞれが連携した、ILCの長期にわたる広域

計画の早期策定を求めた。同日は、パネルディスカッションも行われ、「ILC誘致と新たな国際学術研究ゾーンを考える」をテーマに、研究者や企業関係者、海外出身者らが意見を交わした。この中で東京大学素粒子物理国際研究センターの山下了准教授は「政府が正式にILC誘致を決定しておらず、事業主体が決まっていない現状ではあるが、ILCを見据えたまちづくりはいろいろな所で検討しなくてはならない。組織体制や

予算、スケジュールをしっかりと決め、取り組む時期に今はある」と主張した。県首席ILC推進監を兼務する奥南広域振興局の佐々木淳副局長は聴講後、「ILCが歴史・文化を通して未来の地域づくりを後押しする重要なプロジェクトである」と認識した。また「まちづくりについては、誰が行うのを待っているのではない。自らが地域のことをよく考え、大きな計画につなげていくという姿勢が大切だ」と話していた。